



社会貢献

沖縄県民の健康づくりへの貢献

大学院医学研究科

中村 幸志 公衆衛生学・疫学講座 教授

公衆衛生学は「共同社会の組織的な努力を通して、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的機能の増進をはかる科学・技術(Winslow CEA)」です。医学のなかでは社会医学に分類されます。当講座は、医学部医学科教育においては広く公衆衛生学全般を教授していますが、専門性を持って取り組む研究、大学院教育および社会活動においては生活習慣病対策(主に予防)を主軸に据えています。このため、肥満や多量飲酒などを基盤とする生活習慣病に対処し、健康長寿県の復活を目指す沖縄県内の公衆衛生に関わる諸機関の取り組みと私どもの専門領域が重なり、私どもに参画するようにお声掛けいただいています。

沖縄県保健医療介護部健康長寿課が推進する「健康おきなわ21」という「県民の健康長寿と生きがいに満ちた豊かな人生」の実現のための県民健康づくり運動に関する会議に医師会などの職能団体の代表者、公衆衛生関係組織の代表者などとともに参画し、それぞれの立場で沖縄県の公衆衛生向上について考え、県行政に意見を出し合っています。市町村レベルでは、沖縄市健康福祉部市民健康課が推進する「健康・食育おきなわシティ21」という「ともに生きる心が広がり、いきいきと暮らせるまち」の実現に関する会議にて、職能団体の代表者、公衆衛生関係組織の代表者、市民の生活に関わる団体の代表者、一般市民の代表者などのさまざまな方々とともに同市が取り組むべき施策や進むべき方向性などについて考え、市行政に意見を出し合っています(図1)。このような活動にて当講座は科学的な視点を重視した具申に努めています。

当講座は疫学という人の健康に関するデータサイエンスを得意とし、このアプローチで研究を展開しています。例えば、全国健康保険協会(協会けんぽ)沖縄支部から委託され、県内の民間中小規模事業所の健康診断などのデータを活用し、健康関連問題の実態を数値化して情

報発信しています(図2)。このような研究と社会貢献を兼ねた活動も当講座の特色です。

一般的に医学というと「医療機関での病んだ個人の治療」が想起されますが、医学のなかにも本稿で紹介した領域があり、これに取り組む講座および医師が存在することをご理解いただければ幸いです。



図1. 「健康・食育おきなわシティ21」答申書の手交式(左側が筆者、沖縄市健康食育推進会議会長として、於沖縄市役所)

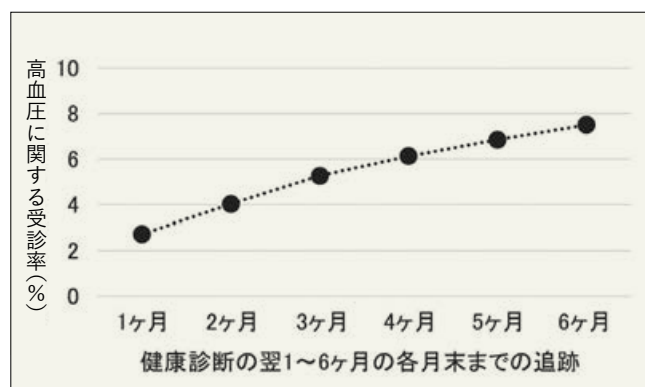


図2. 協会けんぽ受託研究の成果の一部(職域健康診断で新規に高血圧を見出された者の医療機関受診率)
循環器系疾患予防のために沖縄県働き盛り世代の高血圧者を医療につなげる方策が必要であることを示唆しています。
(Kudaka S, et al. Hypertens Res 2025;48:168-179)



国際交流

アジア太平洋とつながる保健医療

保健学科

小林 潤 母子看護学講座 国際地域保健学分野 教授

沖縄に位置する唯一の医学部は設立以来、アジア・太平洋地域との国際連携や国際協力を展開してきました。1992年に開始された東南アジアのラオス国への日本政府開発援助のなかでの始めの技術協力プロジェクトとしてJICAプライマリーヘルスケアプロジェクトに参画し、大鶴初代医学部長の牽引のもと多くの教員が参加しました。ラオス国への支援は違った形で受け継がれており、現在ではJICA草の根プロジェクトとして貧困へき地の少数民族を対象とした母子保健プロジェクトの実施や、マラリア寄生虫に関する大型研究プロジェクトへの参画に発展しています。多くの大学院生や学部生がプロジェクトを訪問し、研究を実施し世界に開かれた視野をもつ保健医療人としての経験を積んでいます。

また太平洋に位置する島嶼から形成されている沖縄は、太平洋に位置する他の島嶼と類似した保健課題をもっています。保健学研究科は琉球大学が推進する島嶼科学の一環としてアイランドヘルスを主体とした研究を推進し、多くの島嶼から形成されているフィリピン、インドネシアの大学との共同研究や教育連携に成果を収めてきました。

また2018年度に採択された文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に参画し、グアム大学やマーシャル諸島共和国、ミクロネシア共和国、パラオの保健医療短期大学と連携し遠隔教育の強化と共同研究を実施しました。医学科ではハワイ大学や台北医科大学において短期の研究と臨床の実施を行っています。これは国際水準を満たした医学教育の導入を盛り込んだ一貫として行われています。平成29年には国際認証を受けています。

保健学研究科は外間・高倉前研究科長が英語による大学院教育を開始し、これが発展して2021年に沖縄県内では唯一JICA開発大学院連携に登録されました。これによってアジア太平洋だけでなく、アフリカ・南アジア各国から多くの留学生を受け入れるに至っています。また琉球大学とJICA沖縄の包括協定のもと、保健分野の課題別研修を低所得国の行政官を対象に年間8本以上継続的に実施してきています。これは沖縄が成果を収めてきた、熱帯病の制圧や島嶼地域での公衆衛生・母子保健の歴史を紹介し、研究科の所属する大学院生を含めて参加者が相互に学ぶ内容となっています。



フィリピンでの保健学科学部生の卒業研究